

令和6年度 第4・5回言語書写部会

第4回 1月10日(金)

第5回 3月14日(金)

新郊中学校

部会での様子

第4回は、研究発表会に向けての準備を行いました。具体的には、発表者の原稿を検討したり、発表リハーサルなどを行いました。第5回は今年度の反省や、来年度に向けてテーマや方向性を確認しあいました。

情報交換

毎回、情報交換の場では各自の実践を持ち寄り、アイデア共有を活発に行っています。今回は言語分野の実践を少しだけ紹介します。

助詞に着目することで作者の思いに気付く言葉の指導

助詞に込められた思いやその使用意図に気付くことで、物語を深く味わい、作者の思いを知る。また、助詞一つで文意を変えたり強調したりすることができるという気付きから、自身の表現の幅を広げる。

少年の日の思い出(1年)

○ 言葉を入れ替えることで、それぞれの言葉の意味の違いを知り、その言葉を使用した作者の意図に気づく。
(「僕」がエーミールのチョウを壊したことを告白した後の、エーミールの態度を示す場面)

- ・ 彼は罵りさえしなかった。
 - 彼は罵り を しなかった。 …… 他はやった!?限定的
 - 彼は罵り も しなかった。 …… 冷たい。
 - 彼は罵り は しなかった。 …… 他はやった。限定
 - 彼は罵りこそ しなかった。 …… それに近いことはやった。
 - 彼は罵り さえ しなかった。
- … エーミールは「僕」に対して、感情的になることはなく、罵りさえもしない。それ ぐらいエーミールは僕に対して失望し、正義をふりかざすために相手に手を出すことは一切ないということを強調するために「さえ」を使った。

- ① 意味の違いや印象を個人→グループで考え、共有する。
- ② 「さえ」を使った作者の意図について考え、共有する。
- ③ 作品中の別の表現に着目し、作者の意図を推測する。

お問い合わせ

連絡先： 言語書写部会部長

書写分野： 港北中学校 戸田 真 IP 71-3132

言語分野： 新郊中学校 古安 良啓 IP 71-3232